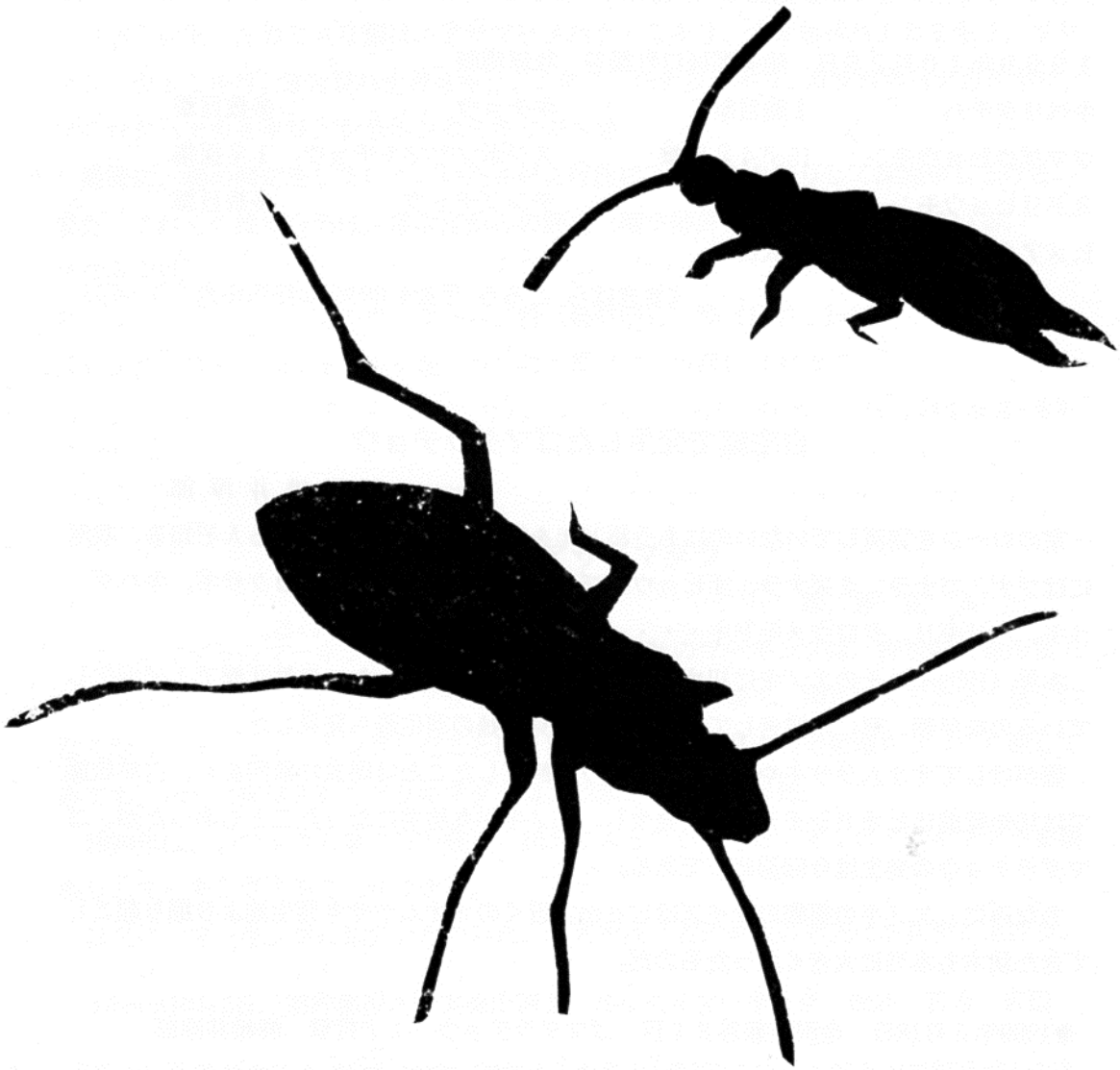
# 翔

百万石蝶談会　No. 141

December 1999



## キベリタテハとツマグロヒョウモンの絡み合いを目撃

牧 原 悟 郎

1999年10月25日、辰口町鍋谷でキベリタテハとツマグロヒョウモンが絡み合っているのを目撃したので報告する。

12時30分ころ奥鍋谷バス停手前の民家庭先で、大型の黒っぽいタテハがツマグロヒョウモン♂と絡み合って飛んでいるのを発見した。黒っぽいタテハは、全く見かけない蝶だったでしばらく観察を続けると、やっと下草に静止しかかり、キベリタテハであることが確認できた。ネットを構えたものの、再びツマグロヒョウモン♂が挑みかかり、絡み合いながら高く舞い上がり、鍋谷川を越え田圃の方へ飛び去り見失った。

当日は快晴で周辺には、ツマグロヒョウモン、ミドリヒョウモン、ヒメアカタテハ、キチョウ、テングチョウが多数見られ、辰口町では少ないスジボソヤマキチョウも見られた。

１９９９年１０月２５日　能美郡辰口町鍋谷　牧原悟郎

| | | | |
|---|---|---|---|
| キベリタテハ | １頭目撃 | キチョウ | 多数目撃 |
| ツマグロヒョウモン | 15♂４♀目撃 | スジボソヤマキチョウ | １♀採集 |
| ミドリヒョウモン | 多数目撃 | テングチョウ | 多数目撃 |
| ヒメアカタテハ | 多数目撃 | | |

《まきはら ごろう 〒924-0836 松任市山島台3－44》

## 自宅庭で発生したゴマダラチョウ

嵯 峨 井 淳 郎

家のローンを完済していないのにもう築20年を経過してしまった。知る人ぞ知る、我庭にはブナ、コナラ、ミズナラ、オヒョウ、デワノトネリコ、イボタ、コクサギ、キハダ、メギ、ハリギリ、クロウメモドキ・・・、そしてエノキを植栽している。

本年（1999年）そのエノキに初めてゴマダラチョウが発生した。自然状態で１♂羽化しているのを早朝、庭に水撒きしていた女房が発見、蛹の羽化殻も発見した。

袋がけしてオオムラサキやゴマダラチョウを飼育したことは過去に数回あり、自然状態では10年程前にヒオドシチョウが大発生し、エノキが丸坊主になったこともあったが、ゴマダラチョウの発生は今回初めてである。

ちなみに、エノキの根際のサイズは17ｃｍ、近くのオオムラサキ発生地より掘り起こしてきた幼木も本当に大きくなったものだ。

◆1999年５月18日　金沢市額谷３丁目　ゴマダラチョウ　１♂目撃　嵯峨井淳郎

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷３-18-２》

## 白山三方岩岳でイガブチヒゲハナカミキリを採集

矢 田 新 平

小松市立博物館の白山三方岩岳～野谷荘司山におけるカミキリ類棲息調査の一環として、1999年８月８日に現地を調査した際、９種類のカミキリ類を採集し、この中にイガブチヒゲハナカミキリ１♀が含まれていたので報告する。本種の記録は井村（1995、1998）によると、これまでに「石川郡尾口村新岩間、1♂2♀、入場 登」の記録しか知られていない。

イガブチヒゲハナカミキリ 1999年8月8日 石川郡吉野谷村白山三方岩岳 1♀ 矢田新平 採集

花上より採集し、採集時は晴で気温は26度Ｃ、調査時間は11時から15時20分の４時間20分であった。

同時に採集したカミキリ類は、アサマヒメハナカミキリ、オオヒメハナカミキリ、ツヤケシハナカミキリ、ヨスジハナカミキリ、フタスジハナカミキリ、カラカネハナカミキリ、マルガタハナカミキリ、シラホシカミキリの８種。

最後に、種の同定をしていただいた井村正行氏に、誌上をお借りして深謝申し上げる。また、これらの採集行為は、環境庁からの許可（環中部許第２３４）を受けている。

《参考文献》

井村正行（1995）石川県のカミキリムシ科（最終回）． 翔（114）：1-6.
井村正行（1998）カミキリムシ類．石川県の昆虫（石川県）：197-217.

《やた しんぺい 〒923-0802 小松市上小松町丙１９２－８》

## １０月のアサギマダラ

松 井 正 人

アサギマダラのマーキングを始めて14年になる。秋のマーキングは、押水町宝達山頂上のブナ林周辺で行っているが、アサギマダラは９月までの蝶で、10月に入ると全く見られなくなり、10月にマーキングしたことは１度もない。石川県内の全記録をひっくり返してみても、10月に観察されたアサギマダラは、12頭にすぎなかった。

1999年は、いつまでも暑い日が続き、10月に入ってからもたくさんのアサギマダラを観察し、マーキングすることができた。

最後に、マーキングに協力いただいた、日吉宏朗、吉田弥生の両氏にお礼申し上げる。

1999年10月2日 羽咋郡押水町宝達山頂上 76♂39♀マーキング 松井・日吉・吉田

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

# 輪島市高洲山周辺でのスギタニルリシジミとオオムラサキ探索の顛末記

日 吉 芳 朗・日 吉 南 賀 子

1999年２月２日、『 北国新聞 』夕刊の「お宝探し」欄に輪島市在住の石畑正夫氏が所蔵されている蝶の標本がカラー写真とともに紹介された。そしてその記事の中に氏が昭和57年（1982年）に高洲山でオオムラサキを採集されたことが記されていた。その夜、松井正人氏からいただいた電話で、1982年といえばそれほど遠い昔でないので、石畑氏にお会いして事実関係を確認してほしいとのことであった。

石畑氏は主に1970年代から90年代にかけて、輪島市のかなり広い範囲で蝶採集をしておられたことを耳にしていたが、筆者らはこれまでお会いすることがなかった。そこでこれを機会に２月５日、ご自宅をおたずねし、標本を見せていただくとともに輪島市の蝶について色々とお話をうかがうことができた。その中で新聞記事の1982年は記憶違いで1972年が正しいとのことであった。ただ残念なことに氏の標本にはラベルがなく正確な採集日を特定することができなかった。しかしその２日後、記録ノートと記憶を頼りに作成されたお手元にある蝶の採集年月と採集場所を記したリストを持って､拙宅をたずねて下さった。その中にスギタニルリシジミを1997年８月、高洲山で採集されたとの記録があった。氏によると高洲山のトチノキの樹上を飛び回っていたとのことであるが、ご自身これについてはいくらか疑問もあると述べておられた。

■スギタニルリシジミ

高洲山のスギタニルリシジミが筆者らの頭から離れず、どうしても自分らの目で確かめたいとの思いがつのり、まず３月から４月にかけて高洲山でトチノキが生育している場所さがしを始めた。ところが小牧旌・他編（1994）によると輪島市の産地は高洲山、一乗だけでしかも４ケ所以下の少ない種と記されている。実際、高洲山ではなかなか目にとまらず、ようやく５月５日になり林道大箱鉢伏線の途中で、鉢伏山横の三叉路より一乗へ向かうほぼ0.10ｋｍの地点（Ａ）で２本、0.85ｋｍの地点（Ｂ）で５本、1.10ｋｍの地点（Ｃ）で１本のトチノキの巨木をみつけることができた（本地点は標高450～500ｍの位置にある)。これらは道路から数メートル離れた崖下または崖上にあり、とくにＢ地点は木のそばに渓流とは言えないまでも道路を横切った水が絶えず流れている。しかしまわりに吸蜜できる花はない。そこでこの日を皮切りに、５月中に８回この地をおとずれ、その都度30分～２時間にわたりその周辺を観察した。時間的には午前中は５回、午後は３回である。なお、福田晴夫・他編（1984）によるとスギタニルリシジミは晴天時の午前中から正午過ぎまでに吸水する個体が多いとある。以下に当地での調査記録の要点を拾い上げて記す。

５月７日、９時20分～10時10分。快晴であるが、風強く、暖かい日和（20℃)。Ｂ地点でトチノキの蕾上を飛ぶルリシジミ様の蝶１頭を目撃した。双眼鏡で観察するも、あまり

に風が強くやがて見失ってしまった。そこでトチノキの生えている崖下へ降り、流れの周辺の砂地をさがしたが吸水している蝶の姿はなかった。ところがここの地盤はきわめて弱く容易に崩れ落ちるため道路まで登るのに大変な苦労をした。そのときは二度と降りたくないと思ったほどである。

８日、13時～15時。曇のち晴れで風弱く、暖かい。やはりＢ地点で蕾上を飛ぶ蝶１頭を目撃した。同行した３男の宏朗が蕾上に静止する蝶を双眼鏡で観察したところ裏面は黒ずんでおり、白色でなかったという。道路際へ降りてきたため捕虫する機会が３度あったが、いずれも間一髪で取り逃がした。なおこの日、同地点の道路上でルリシジミ♀１頭を採集した。

９日、９時40分～11時20分。快晴であるが、風はやや強く、暖かい日和。やはりＢ地点のトチノキの蕾上で１頭を目撃したがこの日は１度しか下へ降りてこず、しかもみごとに取り逃がした。なおこの時点でトチノキの花はまだ咲いていなかった。

13日になりトチノキの花が一部咲き出し、17日には五部咲き、23日は満開となった。とくに23日、９時20分～10時30分は、晴、無風、暖かく絶好の日和であったが、１頭の蝶もあらわれなかった。しかし30日、９時50分～11時20分は、晴、風弱く、肌寒い日であったが、トチノキの花上を飛び回るルリシジミ様の蝶１頭を目撃した。姿をはっきり捉えられる位置に静止しないため、双眼鏡でも確かめられず、やがて姿を消してしまった。６月３日にはＡ地点の花は散っていたが、Ｂ地点はなお花を咲かせていた。しかしこの日をもって一応スギタニルリシジミの調査を終えることにした。以上の記録をまとめると、下表のようになる。

| 調査日 | トチノキの状態 | 調　査　状　況 |
|---|---|---|
| 5月 7日 | 蕾が見られる | トチノキ蕾上でルリシジミ類を目撃 |
| 5月 8日 | | トチノキ蕾上でルリシジミ類を目撃 |
| 5月 9日 | | トチノキ蕾上でルリシジミ類を目撃 |
| 5月13日 | 花が咲き出す | |
| 5月17日 | ５部咲き | |
| 5月23日 | 満開 | |
| 5月30日 | | トチノキ花周辺でルリシジミ類を目撃 |
| 6月 3日 | Ａ地点の花散る | |

観察記録を整理してみると、結論を先に言えば、この地点でスギタニルリシジミが生息している可能性は低いように思われる。もし発生しているとすればＡ、Ｂ、Ｃ３地点のう

ちＢ地点が最も条件を備えていると考えられる。始めの数日に目撃したものは同一個体の可能性もあり、さらに30日のものを含めても個体数がたいへん少ないこと、また同地点でルリシジミが採集されていることなどから、これらがスギタニルリシジミかどうかは疑わしい。しかし双眼鏡で観察された裏面の色が今一つ気になる。ともあれ１年目の調査であることから、もう少し時間をかけて調べてみる必要がありそうである。

■オオムラサキ

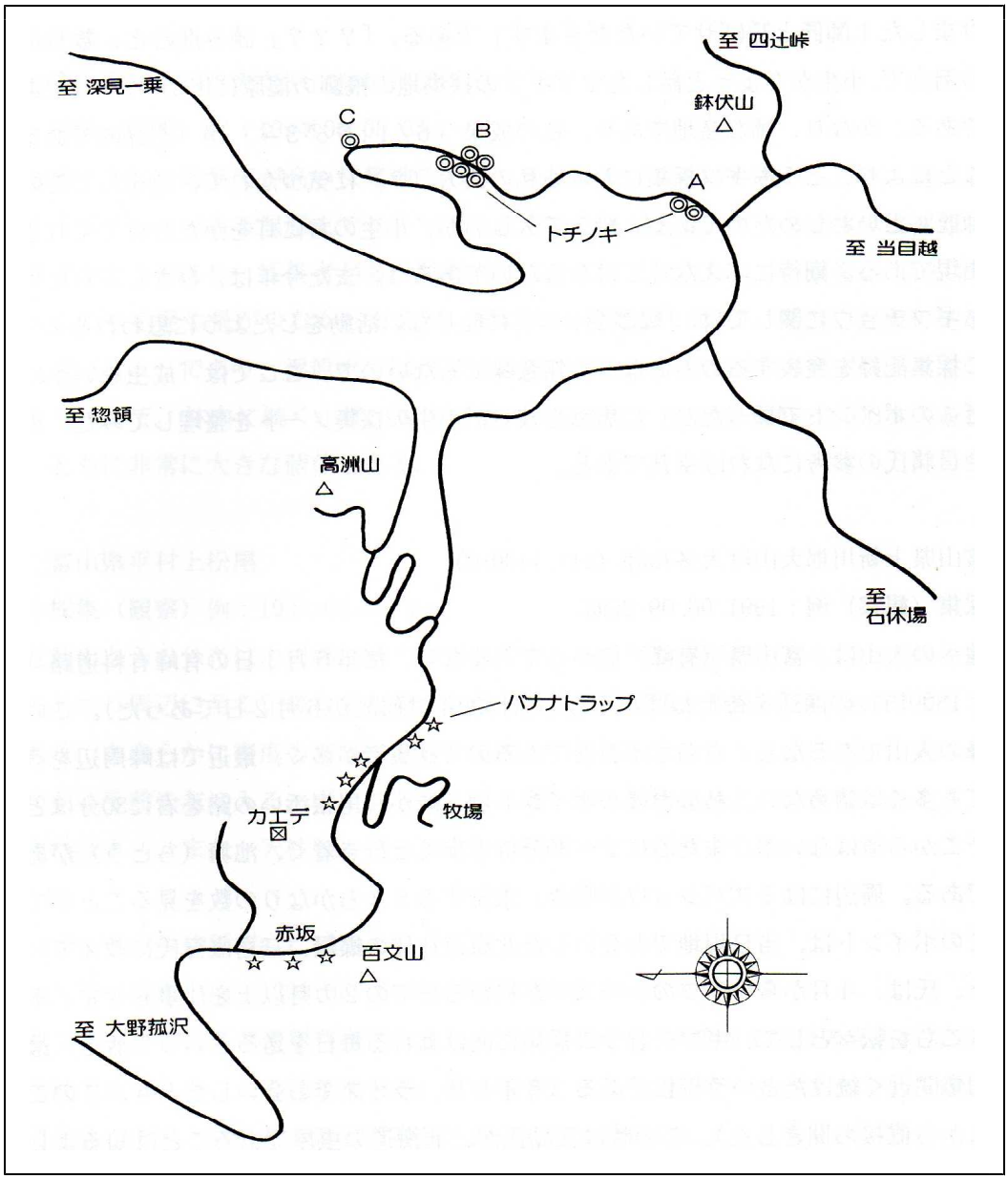
輪島市で採集、目撃されたオオムラサキの記録は30年以上も前にさかのぼる。当時、石畑正夫氏の弟である石畑久雄氏が1965年７月25日、高洲山で発見され、７月28日に筆者も中腹の通称赤坂付近（標高320m）で5～6頭が飛び回っているのを目撃した。そして８月５日には石畑氏が１♂を採集されている（日吉芳朗,1969)。その後、すでに記した石畑正夫氏が1972年７月と1973年８月に同じ高洲山の通称牧場前（標高430m）の谷でそれぞれ３♂と１♀を、1975年８月に赤坂付近で１♀を採集された。また同年、高洲山周辺ではないが下山地内の細田のバス停付近でも１♀を目撃された。

筆者らはしばらくの間蝶採集を中断していたが、1993年より採集活動を再開して以来、最も注意を払った蝶の一つが高洲山のオオムラサキであった。しかし1998年までの６年間、１頭の個体も目撃すらできなかった。かくして本年になり石畑氏にお会いし、かっての採集地点の詳細をお聞きしたり、松井氏からの再調査の強いお勧めもあって、6月より高洲山の牧場前付近と赤坂付近を重点的に調べることになった。6月に３回、７月には９回、同地点を訪れたが発生している様子がなかったので、松井氏の示唆で、牧場前付近と赤坂付近に完熟バナナにブランデーをかけたトラップをそれぞれ３～５ヶ所につるしてみた。ただこうしたことに未経験の筆者は、トラップの威力を過小評価していた。８月５日にかけ始めて、23日までに13回同地を訪れるなかで、これは昆虫を集める強力な手段であることを認識した。多数の甲虫類、蛾類とともにこのトラップに誘われた蝶は、ヤマキマダラヒカゲ、クロヒカゲが最も多く、ルリタテハがそれにつぎ、そして少数のゴマダラチョウ、アカタテハ、ヒメジャノメの６種であった。しかしめざすオオムラサキが誘われることはなかった。

また、７月31日に石畑氏と筆者ら３人は氏がかってオオムラサキを採集されたという牧場前の谷へおりてみた。すでに25年以上も経過していたが、当時多数のオオムラサキが集まっていたというカエデをようやくさがしあてたものの、樹液はまったく出ておらず、蝶のかげはなかった。

以上のような状況から、輪島市の高洲山のオオムラサキは姿を消したと考えたくもなる。その原因は定かではないが、オオムラサキの成虫が生きていくためには大量の樹液が必要であるといわれており、松井氏が指摘されているようにこの地ではその樹液を出す木がなぜか年々減少してきているせいなのかもしれない。しかし食草のエノキは広範囲にみられ、

これを食するゴマダラチョウは今なお広く分布している。筆者らは本年だけでも輪島市内で計４頭を採集、31頭を目撃することができた。同じエノキを食するヒオドシチョウは、ほとんど姿をみせず、本年は宝立山で３頭を目撃したにすぎなかった。




《参考文献》

小牧旌・他編（1994）輪島市の植物目録　平成５年度:50. 輪島市教育研究所.

福田晴夫・他編（1984）原色日本蝶類生態図鑑(3):282-285. 保育社.

日吉芳朗（1969）石川県旧輪島町周辺の蝶類について. 石川県立輪島高等学校紀要(3):53-59.

《ひよし よしろう・ひよし ながこ 〒928－0001 輪島市河井町１部64－1》

# 飛越のヤマギフ・ノート

指 田 春 喜

1999年６月上旬のある日、２年生の講義を２コマ終わり、部屋でコーヒーをすすりながら、メールをチェックすると、久慈会員からの初めてのメールが入っていた。いきなり、「参りました！師匠と呼ばせていただきます」である。「？？？」読み進むと、数日前の６月の例会で､小生がちょっと話したヤマギフの採集地の飛騨の湿原に出かけ､Nullであった由である。かなり、稀な産地であり、私の成果（６/１:６♂３♀）が「記録的である」とのことにより、どうもギフ採集における私の実力（？）に気づかれて、彼をしてこの私を「師匠」といわしめたのである。絶えて久しいが、小生の言に耳をかたむけてくれる御仁の出現である。期待に応えなくてはならないであろう。また今年は、ひさしぶりに当会会員もギフチョウに関しては､「蝶談会」の名に恥じない活動をしたように思われるので、表題の採集記録を発表するのもあながち無意味でもないので、ここでは「成虫をいかにして、どこのポイントで採ったか」に焦点を絞り、小生の採集ノートを整理してみた。少しでも会員諸氏の参考になれば幸甚である。

１．富山県上新川郡大山町大多和峠（alt.1100m）

採集（観察）例：1991.06.09 25頭

当地への入山は、富山県（有峰）側からであるなら、毎年６月１日の有峰有料道路（普通車：1800円）の開通を待たねばならない（1999年は何故か６月２日であった)。この開通以降の入山であるなら、有名ポイントであるので採集者が多く、最近では峠周辺をうろついても多くは望めない。私のお奨めポイントは、峠から尾根添いの路を右に30分ほど行き、そこから道はないが、また右に２～30分ほど歩くと行き着く、池塘（ちとう）がある湿原である。周辺にはミズバショウが咲き、求蜜するメスもかなりの数を見ることができる。このポイントは、当日現地でお会いした北海道在住の蝶屋、三島直行氏に教えていただいた。氏は、４月からのギフのシーズンが終わるまでの２カ月以上を仕事をせず、本州であちこちを転々として、ギフチョウの採集に明け暮れる毎日を送るという生活を、最近まで10年間近く続けたという御仁である（今年５月、ラオスでお会いしたとき、このことを本人から直接お聞きした)。この時は三島氏が、北海道の虫屋であることは知るよしもない。長靴が必要。

２．富山県中新川郡立山町美女平（alt.1000m）

採集（観察）例：1991.05.20 1♂1♀，1993.06.01 9♂1♀,1994.06.01 7♂5♀

ケーブルカーを降りれば、もうそこが観察ポイントである。ただし、ここでの難点は、ギフチョウが発生する頃には、既に立山の観光シーズンがはじまっていることである。そ

して、観光バスがひっきりなしに通る道路以外に、あまり小道が無いのである。ポイントは、ケーブルの駅を降りた前のロータリーから1.5ｋｍほどの道路添いである。ロータリーにある矮小なヒメカンアオイからは、簡単に卵を見つけることができる。春の雪解けが早ければ、５月の連休を過ぎる頃に成虫が見られる。

３．富山県利賀村水無湿原（alt.1450m）

採集（観察）例：1994.06.05 3♀

当地はかなり難易度が高い採集地である。年により、雪解けが遅かったり、道の状態が悪く、ポイントである湿原までクルマで入れないことがある。ギフの発生地は湿原の中より周辺のようであり、採集者が多い湿原内ではほとんど採れないことが多い（1994年の当日、この年の発生量が少なかったのか、同時入山者数名はNull)。最近、湿原の乾燥化が進んでいるようであり、湿原内には食草はあまりない。小生は湿原のはずれから左にそれるようにして、林内に続く小径（途中で消えてしまう）でほぼ同時にこの3メスを採集した。ともに非常に大きな個体である。

４．富山県平村上松尾

採集（観察）例：1997.04.28 ７♂

五箇山からの分布は白川郷に続くのであろうし、石川県湯涌温泉からブナオ峠を経て、このあたり周辺に至る正確な分布を小生は把握してないが、普遍的にいるのではなさそうであり、あきらかに密度の濃淡がある。城端から五箇山トンネルを出て、白川郷への道にぶつかる手前を左に入る。ポイントをしぼり難いが、鉄塔をめざし、適当なところで尾根に出ればよい。また、天柱石に至る途中の道路添いでも採集できる。

５．富山県有峰祐延（alt.1350m）

採集（観察）例：1999.06.05 ５♂９♀，1999.06.06 ６♂５♀

ギフチョウの採集で遭難騒ぎになるなんていうことは､10年前までは考えられなかった。３年前であったか、この祐延池（湖）畔の東笠山山頂付近でギフを採集していた蝶屋がクマに出会ったこともあり、断崖で身動きがとれなくなってしまったらしい。結局、ヘリコプターを要請、救出されるということがあった（たぶん、事実であると思われるが、真意については小生は確認はしてない)。ここのギフはハイマツの上を飛ぶのでヤマギフならず、一部ではミヤマギフと称されるらしい。やぶこぎをしてまでの苦労して東笠山に登らずとも、この池付近一帯に広く、しかもかなり密度濃くギフは分布している。６月に入らないと有峰有料林道は開通せず、それ以後の天候の良い日は、休日ならずとも採集者は必ずいる。とくに関西方面からの虫屋が多く、初心者をよそおい彼らにポイントを教わるのも得策である。

６．岐阜県高鷲村蛭ヶ野高原

採集（観察）例：1983.05.22 ９♂３♀

当地は、４年次学生との教室旅行の折、訪れた場所であり、宿泊したペンション（民宿？）のテニスコートの脇で採集した。当時、蛭ヶ野高原でこの時期にギフチョウが採集できるとは思ってもなく（まだ、ギフチョウ・ブームではなく、ネットを手にした者は誰もいなかった)、「やけに遅い発生だなあー」ぐらにしか感じなかった。今から思うと、ろくにできないテニス・ラケットなんか振りまわしてなんかおらず、学生にもネットを振らせば良かったなあー。聴くところによれば、今でもポイントはテニスコートの脇なんかの何でもないようなところらしいが、最近の詳細は知らない。吉村会員が一番詳しいのではないか。

７．岐阜県白川村馬狩（alt.650m）

採集（観察）例：1992.04.26 ８♂４♀

当地もヤマギフの採集地として以前から有名な場所であり、多くの言葉を必要としないであろうが、数を採集するなら、以下のポイントである。白川郷の方からスーパー林道を行き（この時期、開通していない)、馬狩トンネルを抜け、約200mほど行くと、料金所手前の右側に茶店の廃屋が残っている。この横を道路からそれて、右手に入って行く。杉林を抜けると送水管があり、これを渡る。小径の両脇はブッシュであり、採集はし難いが、数は多い。小生、このポイントに行き着くまでに時間をロスしてしまい、上記の成果は、午後1時間でのものである。

８．岐阜県河合村天生峠（alt.1290m）

採集（観察）例：1996.05.26 ２♂，1996.06.01 11♂１♀

ここでの採集は惨敗の連続であった。私が目撃ゼロのとき、現地で会った勝見会員が９頭の採集というときがあり、この時は落ち込んだ。その後も天候が悪かったり、歩くのもおぼつかないような名古屋から来たというじいさんに目の前で、採られたりもした。上記のものは、６、７回通ったのちの採集結果である。当地も最近はとみに有名であり、シーズン中には平日でも採集者は必ずいるので、数を望むのであるならば、湿原の中にいてはだめである。白川郷から入ったならば、峠の手前4～500mの左側の斜面を登る（細いけものみちがある)。ところどころ開けた場所で待てば、ギフは下から上がって来る。当然、メスは採れないが、湿原内でチャンバラをやるよりはいいであろう。なお、下（白川郷、河合村とも）のゲートが開くのは、毎年、6月1日であるが、開通前に入っている者が多い。このゲートの錠は、数字が３つ並ぶものであり、その数はゾロメの時が多い（これ、内緒！ちなみに、1996年は「333」であった)。

９．岐阜県河合村井谷林道

採集（観察）例：1997.04.26 ４♂

この周辺での採集情報の詳細はあまり把握できていない。ただ、分布の密度に濃淡はあるであろうが、どこにもいるはずである。時期的には、４月下旬より確実に発生しているが、５月に入ってからの方が良いであろう。この地域は分布が広いが故にポイントが絞りにくく、雪の具合を見ながら、標高を合わせることである。当地の発生は高山周辺より若干早い。

10. 岐阜県神岡町深洞湿原（alt.1500m）

採集（観察）例：1999.06.01 ６♂３♀

この周辺の採集地は「だんだらちょう」の諸氏により開拓されたのであろう。R41号を神岡で別れ、山の村を経て、打保をめざす。途中、有峰へ通ずる新しい道もできたが、ここを右に山吹峠に向かう（さらに進めば、双六渓谷に出会う)。峠の手前500mほどのところに左に入る林道があり、入口すぐにゲートがある。飛騨ナンバーの地元の人たちはクルマで入れるようだが、ゲートは頑丈な錠前で鍵がなければアウト（残念ながら、数字錠ではない)。地元の山菜採りの人のクルマにでも便乗できれば言うことないが、さもなくば、ここより６ｋｍ、標高差1000mを歩かなければならない。１時間4～50分はかかる。この日小生は、一回り小さいせがれのマウンテン・バイクもって行き、乗れるところは、これで時間を短縮し、無理ならば引くという戦法をとった。行きの登りでは、何回このチャリンコを放りつけようかと思ったが、結果的にはこれが大正解！ブレーキをかけ続けるのに少々手が痛くはなったが、帰りは30分かからずに風を切り戻ってこれた。採集地の湿原はこの林道からは見えず、峠の手前500mを右に入る急な登りの「けものみち」程度の踏み後があり、これを1ｋｍほど行くと湿原に出る。それほど大きいものではないが、ヤマギフの採集地として、仲なかいい雰囲気はある。クマよけの鈴は必需品！

11. 岐阜県神岡町北の俣岳登山路水の平（alt.1550m）

採集（観察）例： Null

来年度採集の隊員募集中です。

《さしだ はるき 〒920-0921 金沢市材木町15-68》

しだいに取り残されてしまう様な不安が襲ってきた。

**ヒメウラボシとシロウラナミ**

八重山足早組の一人、細沼氏は、昨年から採集を持ち越していたヒメウラボシを何とかゲットし、超足早の山岸氏は、細沼氏の目の前で一人だけシロウラナミをゲット。

**「タガメが電灯に飛んできた」**

この情報、信憑性が高いと踏んだ富沢氏、翌日には能登へ調査に出かけたが、周囲の池は全て干上がっていた。調査網を広げてみても、タガメは確認できなかった。

**九十九ツマグロメッシュ地図**

ツマグロヒョウモンが今年観察された地域を五キロメッシュに落としてみると、ベッタリいるはずなのに、穴メッシュが目立つ。Eメールで会員に配信すると、毎週データが集まり穴はポンポン埋まった。中でも嵯峨井メッシュが多く、氏の大活躍が光った。

**飛んだ飛んだ富田林**

宝達山マークのアサギマダラが再捕獲された。場所は大阪府富田林市。連絡していただいた脇坂さん、大島さん、ありがとうございます。今年は県内で千頭を越すアサギマダラがマーキングされているので、これからの再捕獲ニュースが楽しみだ。

**またまた飛んだ三重県御浜町**

宝達山マークのアサギが、またまた再捕獲された。今度は三重県御浜町。それにしても富田林市の個体とこの個体、マークの時間差はたったの四分。連絡していただいた多田さん、金沢さん、ありがとうございます。

**未記録と稀少甲虫がチラホラ**

県内未記録、あるいは一頭か二頭しか記録がない稀少甲虫がポツポツ採れている。一種は今号で発表されたイガブチ君だが、後三種については発表まで名前が出せない。

**二十七ミリのスーパーミニ**

寒くなるとツマグロヒョウモンのミニタイプが出現する。塩屋海岸はまだまだ暖かい様で、十一月に入っても前翅長三十三ミリを下回る個体は出現していないが、鶴来はやっぱり山の中、二十七ミリのスーパーミニが飛んでいた。

**自分のモノが一番良かった**

昆虫館展示用のオオセンチを求めて、宝達山にトラップを設置した富沢氏、いろいろなエサを使ったが、自分が作り出したモノに一番集まった。展示では「私のウ・・に集まった」とは、まさか書かないでしょう。

**前評判で終わったウスイロコノマ**

九月には、岩手でリュウキュウムラサキ、千葉でムラサキツバメ、北海道でウスイロコノマが目撃された。金沢でもウスイロコノマが目撃され、今年は迷蝶天国かと思われたが、それっきりだった。

**アサギマダラ再捕獲ラッシュ**

九十六年から増えだした再捕獲、昨年は三十二例だったが、今年は既に七十例を越えている。再捕獲が増えるとマーキング人口が増え、更に再捕獲が増える。

## 例会の記録

十月七日（木）城南管工二階にて八時から開催。

今回はまたまたクロシジミの話。山のクロシジミと里のクロシジミ、それこそゴマシジミの様に生息環境が違い、金沢のはヤマクロシジミだ。

その他の話題は、ツマグロヒョウモンの訪花植物、象潟のギフ、ラオスのエウレマ箱いっぱい、県内二頭目のイガブチ、セミ採りの技、原稿の受付日と受理日、にぎやかしは八重山にいる、今から八重山、などなど。

参加は、矢田、富沢親子、中西、松井、山岸、井村、指田、竹谷、西原の十人。

【表紙デザイン：小幡英典】

# 会員の動き・しやばの動き

**クジャクにエル、キベリが乱舞**

場所は釈迦林道。この三種、同時に観察するのは極めて珍しい。キベリは何時だって飛んでいるが、エルの観察例はこれまでに十五例、クジャクもそう簡単には観察できない。この乱舞でおいしい思いをしたのは、生田氏と細沼氏、そして井村会長。

**アサギマダラの移動遅れる**

アサギの集団が宝達山を通り過ぎていくのは、例年では九月中、下旬。ところが今年は十九日になってやっと集団が現れ、十月二日まで移動が観察された。

**アサギマークは千頭を越える**

輪島の日吉氏が参加したこともあり、今年のマーキングは、夏期に四百頭を越えていた。秋期に入ると、日吉氏の息子、宏朗氏を含め三名が新たに加わり、最終日のマーキングで、総マーク数が千頭を突破した。

**金沢以南の里山は完全制圧下**

嵯峨井氏に引き連られる形でスタートしたツマグロプロジェクト、ツマグロデータが集まり出すと、金沢市から加賀市にかけての里山は、完全にツマグロヒョウモンに制圧されていた。

**いつまで経っても鹿のツノ**

日吉宏朗氏が飼育しているオオムラサキ、なかなか越冬幼虫にならず、いつまで経っても鹿のツノらしい。今度脱皮した幼虫は、片方のツノが棒状、もう片方が鹿のツノと、体半分が越冬幼虫とか。

**秋の白山マイカー規制**

これまで、夏休み期間中は土曜の十時から月曜の正午まではマイカー規制され、市ノ瀬から奥へは入れなかった。今年は、同じ規制が秋にも行われ、今後も続きそうだ。

**ツマグロ前線は口能登にあり**

能登にツマグロ調査に出かけた嵯峨井氏と松井氏、勇んで出かけたものの、邑知潟を越えると、何処にもいず、金沢に戻るに従って、ポツンポツンと飛びだした。金沢までは普通に見られるツマグロヒョウモンも、口能登で稀になり、それより北は従来通り山頂付近でしか観察できない。

**南の島単独十二日間採集三昧**

学生にしかできないような旅行を、子持ちのおじさんがやってしまった。勤続二十年のご褒美休暇で八重山を訪れた笹川氏、現地では足早に通り過ぎていく細沼氏や山岸氏をのんびり見送っていたが、


**翔　141号**

Tobu　1999年12月1日発行

百万石蝶談会

http://member.nifty.ne.jp/hakusan/

金沢市大場町東871-15 松井方

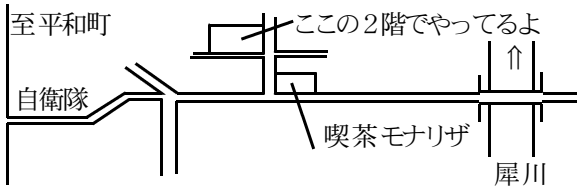
〒920-3121　☎076-258-2727

郵便振替　00750-8-562

印　　刷　小西紙店印刷所


例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から

TEL参加もOKです（076-244-3318）



## 目　次（141号）

牧原悟郎：キベリタテハとツマグロヒョウモンの絡み合いを目撃　… 1
嵯峨井淳郎：自宅庭で発生したゴマダラチョウ　…… 1
矢田新平：白山三方岩岳でイガブチヒゲハナカミキリを採集　…… 2
松井正人：１０月のアサギマダラ　…… 2
日吉芳朗・日吉南賀子：輪島市高洲山周辺でのスギタニルリシジミと
オオムラサキ探索の顛末記　…… 3
指田春喜：飛越のヤマギフ・ノート　…… 7
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き　……12